

令和7年度 大田区立矢口中学校 自己評価 報告書

令和8年3月6日

○ 本校の概要

気づき、考え、行動できる生徒を育てる(学ぶ人 思いやる人 鍛える人 はばたく人)を教育目標に掲げ、矢中祭や宿泊行事、ボランティア活動等を通して、また、令和8年からコミュニティ・スクールとして地域と連携した教育活動を進めていく。

「取組評価」は、「取組指標」に基づき4段階で評価する。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価人数	コメント	
生予個 き測別 力難標 をな1 育未 成来 社 会を 創 造 的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2	4: 7人	7	STEAM教育について身近でないため、地域の方に理解してもらい工夫が必要である。 教科横断的な学びについて、不十分であったため、年間計画をたどり取り組む。 ・学校公開や行事を通じてSTEAM教育の明確な提示や取り組みをわかりやすく紹介する。 ・地域との関わりで、より具体性が必要 ・情報活用能力の育成としてタブレットを活用した授業を継続する。 ・対話型のグループ学習は今後も多く取り入れていく。(継続) ・問題解決能力の育成について今後も継続していく。	A	2	・特別支援学級での取組には工夫が必要だと感じる。 ・STEAM教育について取組を行っているのか理解度や知名度が低かった。 ・他者と協働していく力の育成の一つとしてタブレットの活用が有効であった。 ・体育の授業では、運動生理学的な分析や物理的な体の力の方向(力の伝わる方向)などをいろいろな種目で生徒に考えさせながら授業を展開してきた。 ・授業形態を一斉からグループ学習を多く取り入れているため、生徒同士の学び合いや自己評価、次の課題設定ができるようになってきていると感じた。 ・理科の授業では、答えの出にくい問題について、タブレットを積極的に活用した。
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3: 8人					
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		2: 1人					
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		1: 1人					
お世個 お界別 たと目 をつ標 担な2 うが 人 材 国 を 際 都 育 成 市 し ま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2	4: 6人	6	・道徳や総合の時間の有効活用を継続していく。 ・生徒の実態に合わせて現代社会の課題を自分事としてとらえることについて、スモールステップで行っていく。 ・教科横断的な学びも意識する。 ・それぞれの教科担当が、自国の文化や伝統に触れる取り組みや世界に目をむけた課題を取り入れるよう意識し教材づくりをする。 ・効果があった内容については継続していく。 ・校内研究や発表会などを通して、効果があった点はフィードバックしながら、互いに取り入れるようにする。	A	2	・外国人講師(ALT)が英語力やコミュニケーション能力の向上に努めている。 ・自分とは異なる文化や価値観を理解するため道徳の授業や総合的な学習の時間を有効活用することができた。 ・中学1年においては現代社会の課題を自分事としてとらえることが難しいことが多かった。 ・外国語教育については、英語科にすべて任せっきりになってしまう。 ・エネルギー問題を意識して授業展開をした。
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3: 7人					
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		2: 1人					
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		1: 1人					
た一個 め人別 の目 基と標 礎り3 とが な個性 力とを 能力 成を し発 揮 す る	児童・生徒が豊かな人生を生きる上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	4: 9人	9	・道徳の学習の進め方は今年度同様、効果的な学習を継続していく。 ・英検についても、今年度同様、継続指導していく。 ・保健の教科書では多岐にわたる内容のため教えきれないため、タブレットや資料をあらかじめ準備し、効率よく授業展開していく。 ・道徳の授業は、答えを導き出すというより、課題を考えるとことに視点を置く。また、担任以外の教員の授業も引き続き行っていく(継続) ・小中一貫で、密な連携をとり、効果的な接続ができるよう工夫する。 ・多様化する生徒の実態を正しく判断し、多くの大人による支援や見守りが必要である。 ・小中一貫研修や、近隣小学校と生活指導主任をリーダーとしてルールについてのすり合わせを年度内に数回行い、それぞれの学校で周知する。	A	3	・道徳の教科書の内容を中心に、その時期に合わせた課題を進めることができた。 ・道徳の授業では、互いに学びあいの学習を展開でき、活発な意見交換もできた。 ・体育の授業では、個に応じた課題設定を行い、それを解決するための手段を援助的に指導することができた。 ・英語検定では、2次の対策を本校の学習教室で行うことができた。 ・体育の授業では、健康や免疫力の向上に向けて、成長過程でのからだの状況や栄養的なこと、睡眠や免疫機能の働きなど、多岐にわたるため、教科書の内容だけでは、補いきれなかった。 ・生徒にわかりやすく、資料提供をするなど、授業の工夫を意識して行ってきた。 ・担任だけでなく、副担任も積極的に道徳の授業を行うことができた。 ・小中一貫した教育が意識できるとよい。 ・個に応じた学習支援を充実させたいが、本当に個々に対応するには人手が不足していると感じる。 ・小学校、中学校と共通のルールを設けないと、ギャップを埋めることは大変だと感じる。 ・SDGsの意味を理解することができた。
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3: 9人					
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		2: 0人					
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		1: 0人					
た一個 め人別 の目 基と標 礎り3 とが な個性 力とを 能力 成を し発 揮 す る	児童・生徒が豊かな人生を生きる上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべての子どもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	4: 9人	9	・道徳の学習の進め方は今年度同様、効果的な学習を継続していく。 ・英検についても、今年度同様、継続指導していく。 ・保健の教科書では多岐にわたる内容のため教えきれないため、タブレットや資料をあらかじめ準備し、効率よく授業展開していく。 ・道徳の授業は、答えを導き出すというより、課題を考えるとことに視点を置く。また、担任以外の教員の授業も引き続き行っていく(継続) ・小中一貫で、密な連携をとり、効果的な接続ができるよう工夫する。 ・多様化する生徒の実態を正しく判断し、多くの大人による支援や見守りが必要である。 ・小中一貫研修や、近隣小学校と生活指導主任をリーダーとしてルールについてのすり合わせを年度内に数回行い、それぞれの学校で周知する。	B	18	・道徳の教科書の内容を中心に、その時期に合わせた課題を進めることができた。 ・道徳の授業では、互いに学びあいの学習を展開でき、活発な意見交換もできた。 ・体育の授業では、個に応じた課題設定を行い、それを解決するための手段を援助的に指導することができた。 ・英語検定では、2次の対策を本校の学習教室で行うことができた。 ・体育の授業では、健康や免疫力の向上に向けて、成長過程でのからだの状況や栄養的なこと、睡眠や免疫機能の働きなど、多岐にわたるため、教科書の内容だけでは、補いきれなかった。 ・生徒にわかりやすく、資料提供をするなど、授業の工夫を意識して行ってきた。 ・担任だけでなく、副担任も積極的に道徳の授業を行うことができた。 ・小中一貫した教育が意識できるとよい。 ・個に応じた学習支援を充実させたいが、本当に個々に対応するには人手が不足していると感じる。 ・小学校、中学校と共通のルールを設けないと、ギャップを埋めることは大変だと感じる。 ・SDGsの意味を理解することができた。
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3: 9人					
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		2: 0人					
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		1: 0人					
た一個 め人別 の目 基と標 礎り3 とが な個性 力とを 能力 成を し発 揮 す る	児童・生徒が豊かな人生を生きる上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	4: 9人	9	・道徳の学習の進め方は今年度同様、効果的な学習を継続していく。 ・英検についても、今年度同様、継続指導していく。 ・保健の教科書では多岐にわたる内容のため教えきれないため、タブレットや資料をあらかじめ準備し、効率よく授業展開していく。 ・道徳の授業は、答えを導き出すというより、課題を考えるとことに視点を置く。また、担任以外の教員の授業も引き続き行っていく(継続) ・小中一貫で、密な連携をとり、効果的な接続ができるよう工夫する。 ・多様化する生徒の実態を正しく判断し、多くの大人による支援や見守りが必要である。 ・小中一貫研修や、近隣小学校と生活指導主任をリーダーとしてルールについてのすり合わせを年度内に数回行い、それぞれの学校で周知する。	C	5	・道徳の教科書の内容を中心に、その時期に合わせた課題を進めることができた。 ・道徳の授業では、互いに学びあいの学習を展開でき、活発な意見交換もできた。 ・体育の授業では、個に応じた課題設定を行い、それを解決するための手段を援助的に指導することができた。 ・英語検定では、2次の対策を本校の学習教室で行うことができた。 ・体育の授業では、健康や免疫力の向上に向けて、成長過程でのからだの状況や栄養的なこと、睡眠や免疫機能の働きなど、多岐にわたるため、教科書の内容だけでは、補いきれなかった。 ・生徒にわかりやすく、資料提供をするなど、授業の工夫を意識して行ってきた。 ・担任だけでなく、副担任も積極的に道徳の授業を行うことができた。 ・小中一貫した教育が意識できるとよい。 ・個に応じた学習支援を充実させたいが、本当に個々に対応するには人手が不足していると感じる。 ・小学校、中学校と共通のルールを設けないと、ギャップを埋めることは大変だと感じる。 ・SDGsの意味を理解することができた。
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3: 9人					
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		2: 0人					
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		1: 0人					
た一個 め人別 の目 基と標 礎り3 とが な個性 力とを 能力 成を し発 揮 す る	児童・生徒が豊かな人生を生きる上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2	4: 9人	9	・道徳の学習の進め方は今年度同様、効果的な学習を継続していく。 ・英検についても、今年度同様、継続指導していく。 ・保健の教科書では多岐にわたる内容のため教えきれないため、タブレットや資料をあらかじめ準備し、効率よく授業展開していく。 ・道徳の授業は、答えを導き出すというより、課題を考えるとことに視点を置く。また、担任以外の教員の授業も引き続き行っていく(継続) ・小中一貫で、密な連携をとり、効果的な接続ができるよう工夫する。 ・多様化する生徒の実態を正しく判断し、多くの大人による支援や見守りが必要である。 ・小中一貫研修や、近隣小学校と生活指導主任をリーダーとしてルールについてのすり合わせを年度内に数回行い、それぞれの学校で周知する。	D	2	・道徳の教科書の内容を中心に、その時期に合わせた課題を進めることができた。 ・道徳の授業では、互いに学びあいの学習を展開でき、活発な意見交換もできた。 ・体育の授業では、個に応じた課題設定を行い、それを解決するための手段を援助的に指導することができた。 ・英語検定では、2次の対策を本校の学習教室で行うことができた。 ・体育の授業では、健康や免疫力の向上に向けて、成長過程でのからだの状況や栄養的なこと、睡眠や免疫機能の働きなど、多岐にわたるため、教科書の内容だけでは、補いきれなかった。 ・生徒にわかりやすく、資料提供をするなど、授業の工夫を意識して行ってきた。 ・担任だけでなく、副担任も積極的に道徳の授業を行うことができた。 ・小中一貫した教育が意識できるとよい。 ・個に応じた学習支援を充実させたいが、本当に個々に対応するには人手が不足していると感じる。 ・小学校、中学校と共通のルールを設けないと、ギャップを埋めることは大変だと感じる。 ・SDGsの意味を理解することができた。
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3: 9人					
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		2: 0人					
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		1: 0人					

学個別 校別 力目 ・標 教4 師力 を向 上さ せま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	4:7人 7	・地域を知るためにも、学校運営協議会を通じて積極的なかわりを意識し、開かれた学校づくりを行っていく。 ・地域と学校が情報共有をするよう意識していく。 ・小学校、中学校、さらには幼稚園や保育園との交流の機会を作っていく。 ・小中9年間においても連続した教育を行うには、共通のルールについて話し合う場の設定が必須である。	A	2	・地域の特色を考えることが難しい。 ・教師一人一人が行っている。 ・部活動や補習を積極的に行っている。 ・仕事量が多く、このアンケートを負担と感じてしまうほどである。 ・時間の確保が難しいと感じる。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	3:7人 7		B	11	
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	2	2:0人 0		C	6	
					1:0人 0		D	2	
た自個 め分別 の目 学し 標 びを い き 援 い し ま す と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整え、相談機能の充実を図ること、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	4:6人 6	・引き続き校内特別委員会の運営を継続し、報告されたことを全教員に周知徹底をしていく。(継続) ・対策委員出席者から直接話をきいたり、学年会等で情報共有を意識する。また、記録にも目を通すことを意識する。 ・関係機関との連携を今年度同様に密にし、専門的知識を支援してもら。(継続)	A	2	・毎週「いじめ不登校対策委員会」を行い、各学年の状況や生徒個人の様子など組織的に行っている。 ・個人の様子など組織的に行っている。 ・連携を密に行っている。 ・個別に相談を行っている。 ・全体で共有することができている。 ・あまり情報共有をすることができなかった。 ・教職員に時間と心の余裕があればこの取り組みも可能であるとする。 ・部活動や、学年や、学校において、どの役割があるかで生徒に向かう時間に差がでてしまうのではないかと、生徒の実態に応じて、関係機関につなげ、有効活用することができた。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	3	3:0人 0		B	15	
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	2:0人 0		C	3	
					1:0人 0		D	1	
安柔個 心軟別 なで 目 教創 標 育造 環 境 を 学 習 空 間 と 安 全	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2	4:5人 5	・今年度同様、校内美化に努める(継続) ・生徒の情報共有も継続する。 ・生徒の安全、安心を第一に考え教職員一同チームとなって課題に取り組み(継続) ・情報モラルについては、家庭とも連携をしながら継続的に注意喚起を行っていく。	A	3	・生徒の様子を各授業毎に把握し、情報を共有している。 ・教室やトイレ等の清掃をきちんと取り組ませ、校内美化に努めている。 ・避難訓練は、あらゆる状況を想定し実施している。 ・体育や学活、総合等でも生徒と対話をしながら授業を行っている。 ・学習環境に気をつけて実践できた。 ・命を大切に教育に取り組むことができた。 ・危険なことがあった場合迅速に教職員同士報告、連絡、相談の徹底ができ、全教員に周知徹底ができた。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	3:5人 5		B	9	
					2:0人 0		C	1	
					1:0人 0		D	1	
学地学 校校別 をコ・目 つミ家 標 ユ庭 リニ マテ地 すイ域 の核 連 携 し 協 働 に よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	4:7人 7	・地域の方と教職員が関わりがもてるような取り組みや話し合いの場を積極的に作っていく。	A	3	・PTAをはじめ、地域懇談会でも学校づくりについて話し合っている。 ・朝の挨拶運動等を実施している。 ・放課後補習や漢字検定においても地域と連携して行っている。 ・進路学習で職場体験で地域と連携して取り組んだ。 ・朝、帰りに指導を行っている。 ・情報を発信しているが、学習会や講習会への参加が少なく、発信の必要性がある。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2	3:6人 6		B	11	
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2	2:1人 1		C	6	
					1:1人 1		D	1	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す